

テーマ部会：ハンセン病問題の予備的意識調査

第 2 報告 知識は排除的態度を減少させることができるか

佐藤裕 (富山大学)

1. 分析の意図

ハンセン病についての正しい知識を持つことが、偏見あるいは差別的態度の解消につながるのかを検証する。

2. 病気についての正しい知識を持っているかどうかの指標

問 10 e (「ハンセン病は、すでに治療法が確立している病気だ」という言葉についての反応) を使用。これは、純粹に病気についての知識を表現している文章であり、問 10 の他の項目と「動きが異なる」から。選択肢 4 「そう思う」を選んだ者のみを「正しい知識を持つ」ととらえ、選択肢 3 (どちらかと言えばそう思う) は「あやふやな知識」、選択肢 1 (そう思わない) または 2 (どちらかと言えばそう思わない) は「正しい知識を持たない」と判定する。

これを「正しい知識」とする。単純集計は以下の通り。

正しい知識	269 (35.9%)
あやふやな知識	245 (32.7%)
正しい知識を持たない	185 (24.7%)

3. 病気についての正しい知識と属性との関係

「正しい知識」と各属性との関係は以下の通り。

地域、性別、学歴との関連は見られない。年齢については、若い世代で正しい知識がやや少ない。

		正しい知識				
		なし	あやふ や	正確	検定	
地 域	尼崎	91 27.7%	113 34.5%	124 37.8%	n.s.	
	熊本	94 25.3%	132 35.6%	145 39.1%		
年 齢	45 歳未満	52 33.3%	59 37.8%	45 28.8%	<0.05	
	60 歳未満	46 27.1%	63 37.1%	61 35.9%		
	70 歳未満	39 25.2%	47 30.3%	69 44.5%		
	70 歳以上	37 20.7%	58 32.4%	84 46.9%		
性 別	男性	86 28.5%	102 33.8%	114 37.7%	n.s.	
	女性	90 24.1%	134 35.9%	149 39.9%		
学 歴	中学校	11 32.4%	13 38.2%	10 29.4%	n.s.	
	高校	65 24.9%	88 33.7%	108 41.4%		
	短大・高 専	34 27.4%	47 37.9%	43 34.7%		
	大学	62 26.7%	82 35.3%	88 37.9%		
	大学院	4 15.4%	6 23.1%	16 61.5%		

4. 情報源と病気についての正しい知識との関係

社会啓発を経験した人は正しい知識を持つ割合が高い。書籍や報道を参考にした人も正しい知識を持つ割合が高い。

		正しい知識				検定
		なし	あやふ や	正確		
人権教育	経験なし	108 27.1%	143 35.9%	147 36.9%	n.s.	
	経験あり	69 25.1%	91 33.1%	115 41.8%		
社会啓発	経験なし	154 27.7%	202 36.4%	199 35.9%	<0.01	
	経験あり	26 23.2%	26 23.2%	60 53.6%		
参考にした情報	人権教育	65 28.8%	73 32.3%	88 38.9%	n.s.	
	社会啓発	28 21.1%	35 26.3%	70 52.6%	<0.01	
	報道	98 22.4%	148 33.9%	191 43.7%	<0.01	
	ネット情報	45 24.2%	69 37.1%	72 38.7%	n.s.	
	家族	13 24.1%	17 31.5%	24 44.4%	n.s.	
	書籍	13 21.3%	15 24.6%	33 54.1%	<0.05	

年齢と情報源との関係を調べたところ、若い世代では人権教育やネット情報を参考にしている人が多いことが分かった。若い世代の知識不足は、報道への接触が少なく、ネットから情報を得ていることも一因になっていると考えられる。

	人権教育経 験あり	社会啓発経 験あり	人権教育 参考	社会啓発 参考	報道参 考	ネット 情報参 考	家族 参考	書籍参 考
45歳 未満	86 54.1%	15 9.4%	75 45.5%	11 6.7%	60 36.4%	69 41.8%	16 9.7%	13 7.9%
60歳 未満	83 48.0%	25 14.6%	67 37.6%	34 19.1%	105 59.0%	72 40.4%	9 5.1%	13 7.3%
70歳 未満	62 38.8%	29 18.2%	46 28.2%	35 21.5%	122 74.8%	24 14.7%	18 11.0%	9 5.5%
70歳 以上	41 22.8%	41 23.3%	35 18.1%	50 25.9%	141 73.1%	14 7.3%	11 5.7%	24 12.4%
検定	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.1	n.s.

5. 病気についての正しい知識と排除的態度との関係

病気についての正しい知識は、結婚差別についてはあまり大きな影響力はないが、施設利用については、正確な知識を持つ人は排除的態度が弱い傾向がある。

身内の結婚相手がハンセン病家族だと分かった場合、結婚をあきらめるよう説得するか、本人の意志を尊重するか。

		あきらめるように説得	どちらとも言えない	本人の意思を尊重
正しい知識	なし	11 6.0%	51 27.7%	122 66.3%
	あやふや	17 7.0	68 28.0%	158 65.0%
	正確	12 4.5%	51 19.2%	203 76.3%
	検定	<0.1		

ハンセン病歴者が利用しているとわかった福祉施設は、気にせず利用するか、利用するのをやめるか。

		気にせず利用する	どちらとも言えない	利用するのをやめる
正しい知識	なし	116 63.0%	58 31.5%	10 5.4%
	あやふや	162 66.7%	65 26.7%	16 6.6%
	正確	211 79.3%	41 15.4%	14 5.3%
	検定	<0.01		

6. ハンセン病問題についての知識の指標

問9のなかから、最も根本的かつ知っている人が比較的多い、「c 強制隔離政策」をそのまま使用する。選択肢については、どの選択肢もある程度の割合があること（最小11.9%）と、「内容を少しは知っている」と「内容をよく知っている」の違いが主観に依存するため、そのまま利用することにする。

単純集計は以下の通り。

全く知らない	158 (21.1%)
聞いたことはある	180 (24.0%)
内容を少しは知っている	301 (40.1%)
内容をよく知っている	89 (11.9%)

7. ハンセン病問題についての知識と属性との関係

地域差があり、若い世代で知識を持つ人が少ない傾向があった。

45歳未満では45.7%が「全く知らない」と答えていることには、特に注意が必要だろう。

		強制隔離政策				
		全く知らない	聞いたことはある	少し知っている	よく知っている	検定
地域	尼崎	101 28.5%	96 27.1%	130 36.7%	27 7.6%	<0.01
	熊本	57 15.2%	84 22.5%	171 45.7%	62 16.6%	
年齢	45歳未満	75 45.7%	41 25.0%	41 25.0%	7 4.3%	<0.01
	60歳未満	35 19.8%	42 23.7%	81 45.8%	19 10.7%	
	70歳未満	19 11.9%	38 23.8%	76 47.5%	27 16.9%	
	70歳以上	22 12.0%	45 24.5%	86 46.7%	31 16.8%	
性別	男性	64 20.6%	75 24.2%	128 41.3%	43 13.9%	n.s.
	女性	90 23.1%	95 24.4%	163 41.9%	41 10.5%	
学歴	中学校	11 30.6%	9 25.0%	13 36.1%	3 8.3%	<0.05
	高校	54 20.1%	71 26.4%	116 43.1%	28 10.4%	
	短大・高専	37 27.2%	37 27.2%	48 35.3%	14 10.3%	
	大学	48 20.4%	53 22.6%	102 43.4%	32 13.6%	
	大学院	3 11.5%	2 7.7%	12 46.2%	26 34.6%	

8. 情報源とハンセン病問題についての知識との関係

人権教育、社会啓発、報道、書籍において効果が認められたが、人権教育と報道は「よく知っている」と答えた人の割合があまり高くなかった。

		強制隔離政策				検定
		全く知らない	聞いたことはある	少し知っている	よく知っている	
人権教育	経験なし	109 26.1%	108 25.9%	158 37.9%	42 10.1%	<0.01
	経験あり	37 13.2%	58 20.7%	139 49.6%	46 16.4%	
社会啓発	経験なし	140 24.2%	153 26.4%	233 40.2%	53 9.2%	<0.01
	経験あり	10 8.8%	19 16.7%	52 45.6%	33 28.9%	
参考にした情報	人権教育	37 16.2%	48 21.1%	114 50.0%	29 12.7%	<0.01
	社会啓発	15 11.2%	28 20.9%	59 44.0%	32 23.9%	<0.01
	報道	48 10.8%	101 22.7%	227 51.1%	68 15.3%	<0.01
	ネット情報	47 25.1%	52 27.8%	70 37.4%	18 9.6%	n.s.
	家族	8 14.5%	19 34.5%	24 43.6%	4 7.3%	n.s.
	書籍	4 6.7%	4 6.7%	31 51.7%	21 35.0%	<0.01

9. ハンセン病問題についての知識と排他的態度との関係

強制隔離政策について知ってる人は、排他的態度が弱い。

結婚差別では「少し知っている」と「よく知っている」の差は大きくないが、施設利用ではこの差はかなり大きかった。

身内の結婚相手がハンセン病家族だと分かった場合、結婚をあきらめるよう説得するか、本人の意志を尊重するか。

		あきらめるように説得	どちらとも言えない	本人の意思を尊重
強制隔離政策	全く知らない	12 7.8%	47 30.7%	94 61.4%
	聞いたことはある	15 8.4%	53 29.8%	110 61.8%
	少し知っている	10 3.4%	65 21.9%	222 74.7%
	よく知っている	5 5.7%	13 14.8%	70 79.5%
	検定	<0.01		

ハンセン病歴者が利用しているとわかった福祉施設は、気にせず利用するか、利用するのをやめるか。

		気にせず利用する	どちらとも言えない	利用するのをやめる
強制隔離政策	全く知らない	85 55.6%	52 34.0%	16 10.5%
	聞いたことはある	114 64.0%	55 30.9%	9 5.1%
	少し知っている	223 75.1%	60 20.2%	14 4.7%
	よく知っている	77 87.5%	7 8.0%	4 4.5%
	検定	<0.01		

10. 年齢と知識と忌避的態度との関係

若い人たちは知識が少ない。では、若い人たちがの方が忌避的態度が強いのか。

調べてみた結果、70歳以上で忌避的態度が強く、45歳未満がむしろ忌避的態度が弱いことがわかった。

身内の結婚相手がハンセン病家族だと分かった場合、結婚をあきらめるよう説得するか、本人の意志を尊重するか。

		あきらめるように説得	どちらとも言えない	本人の意思を尊重
年齢	45歳未満	5 3.0%	23 13.9%	137 83.0%
	60歳未満	6 3.4%	38 21.6%	132 75.0%
	70歳未満	6 3.8%	48 30.0%	106 66.3%
	70歳以上	18 9.8%	61 33.2%	105 57.1%
	検定	<0.01		

ハンセン病歴者が利用しているとわかった福祉施設は、気にせず利用するか、利用するのをやめるか。

		気にせず利用する	どちらとも言えない	利用するのをやめる
年齢	45歳未満	126 76.4%	29 17.6%	10 6.1%
	60歳未満	135 76.7%	35 19.9%	6 3.4%
	70歳未満	113 71.1%	38 23.9%	8 5.0%
	70歳以上	107 58.2%	61 33.2%	16 8.7%
	検定	<0.01		

1 1. 年齢層別知識と忌避的態度との関係

年齢が高いほど知識があるのに、なぜ忌避的態度が強いのか。

この問題について考えるために、年齢階層別に（45歳未満と70歳以上のみ）知識と忌避的態度との関係を調べた。その結果わかったことは以下の通り。

- 年齢差の影響は、知識の有無よりも忌避的態度に対する影響が大きく、結婚差別では特にこの傾向が顕著。
- 60歳未満では病気についての知識も、ハンセン病問題についての知識も、忌避的態度に対する影響がある。若い世代では知識が不足しているので、知識を与える啓発で改善の余地がある。
- 60歳以上では、病気についての正しい知識の影響はほとんどない。ハンセン病問題についての知識は忌避的態度に大きな影響がある。
- 年齢別にみると、（少なくとも部分的には）知識は忌避的態度に影響があるが、年齢による影響の方が大きいので、最終的な知識の影響が小さくなっている。

身内の結婚相手がハンセン病家族だと分かった場合、結婚をあきらめるよう説得するか、本人の意志を尊重するか。

	正しい知識	あきらめるように説得	どちらとも言えない	本人の意思を尊重
60歳未満	なし	5 5.1%	26 26.5%	67 68.4%
	あやふや	4 3.3%	25 20.7%	92 76.0%
	正確	1 0.9%	6 5.7%	99 93.4%
	検定	<0.01		
60歳以上	なし	4 5.3%	21 28.0%	50 66.7%
	あやふや	9 8.7%	38 36.5%	57 54.8%
	正確	10 6.7%	45 30.0%	95 63.3%
	検定	n.s.		

ハンセン病歴者が利用しているとわかった福祉施設は、気にせず利用するか、利用するのをやめるか。

	正しい知識	気にせず利用する	どちらとも言えない	利用するのをやめる
60歳未満	なし	60 61.2%	33 33.7%	5 5.1%
	あやふや	95 78.5%	19 15.7%	7 5.8%
	正確	97 91.5%	7 6.6%	2 1.9%
	検定	<0.01		
60歳以上	なし	51 68.0%	20 26.7%	4 5.3%
	あやふや	57 54.8%	39 37.5%	8 7.7%
	正確	106 70.7%	33 22.0%	11 7.3%
	検定	<0.1		

身内の結婚相手がハンセン病家族だと分かった場合、結婚をあきらめるよう説得するか、本人の意志を尊重するか。

	強制隔離政策	あきらめるよう に説得	どちらとも言え ない	本人の意思を尊重
60歳未満	全く知らない	4 3.7%	29 26.6%	76 69.7%
	聞いたことはあ る	4 4.8%	16 19.3%	63 75.9%
	少し知っている	1 0.8%	13 10.7%	107 88.4%
	よく知っている	2 7.7%	3 11.5%	21 80.8%
	検定	<0.05		
60歳以上	全く知らない	7 18.4%	14 36.8%	17 44.7%
	聞いたことはあ る	10 12.3%	32 39.5%	39 48.1%
	少し知っている	4 2.5%	51 32.1%	104 65.4%
	よく知っている	3 5.3%	10 17.5%	44 77.2%
	検定	<0.01		

ハンセン病歴者が利用しているとわかった福祉施設は、気にせず利用するか、利用するのをやめるか。

	強制隔離政策	気にせず利用する	どちらとも言えない	利用するのをやめる
60歳未満	全く知らない	69 63.3%	32 29.4%	8 7.3%
	聞いたことはある	64 77.1%	15 18.1%	4 4.8%
	少し知っている	103 85.1%	15 12.4%	3 2.5%
	よく知っている	24 92.3%	1 3.8%	1 3.8%
	検定	<0.01		
60歳以上	全く知らない	13 34.2%	18 47.4%	7 18.4%
	聞いたことはある	45 55.6%	31 38.3%	5 6.2%
	少し知っている	108 67.9%	42 26.4%	9 5.7%
	よく知っている	48 84.2%	6 10.5%	3 5.3%
	検定	<0.01		

1 2. 課題

- なぜ年齢による忌避的態度の違いが大きいのか。年齢と忌避的態度を媒介する変数は何か。
若い世代は知識が少なくても高齢者より忌避的態度が弱いのはなぜか。
高齢者は知識を持つ人が多いのに若者より忌避的態度が強いのはなぜか。
- 知識だけでは忌避的態度を十分に説明できていない。
高齢者は知識があっても結婚に関する忌避的態度が（あまり）変わらない。
若い世代でも、ハンセン病問題についての知識が結婚に関する忌避的態度に与える影響は小さい。

これらの疑問に答えるために、より詳しい分析が必要。

→第3、第4報告へ